

奈良大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

奈良大学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、次の通り教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

教育内容										学修方法	学修成果評価方法
文学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために教養教育、学科ごとの専門教育、自由選択科目、そしてキャリア教育について、各区分ごとに次の内容の授業を開講している。											
【教養科目】	【各学科専門科目】									【自由選択科目】	【キャリア教育科目】
	<概論>	<専門に関する技法>	<講義>	<専門の実践的科目>	<演習>	<卒業論文>	<概論>	<演習>	<卒業論文>		
<基礎科目> 基礎的科目の技法(スキルズ)や発表・討論の技法を身につけることを目的としている。また、モバイルデバイスを含めた情報機器を用いた技術的な学習、高度情報化社会における諸問題に対応するための科目も含まれている。 情報基礎・倫理・表現技法	国文学科 日本語、奈良時代以降の古典文学、明治以降の近現代文学、および近隣地域の諸邦を概観し、そのおの領域における言語、表現の特質と変遷を学ぶ。さらにそれぞれを関連づけることで、国文学に関する体系的な理解を促す。 国語概論、古典文学概論、近代文学概論、中国文学概論	諸本との校合、古典の注釈などの脚注したテキスト分析などほか、隣接する言語学、民俗学や社会科学との知見を導く。研究や発表の機会に際して、自らの見解を導き出す能力を養う。 国語学 国文学史 現代語学 現代語文論 現代文化論 日本語の歴史と変遷 日本語論 言語伝承論 和歌概論 中世物語論 歴史学論 上方文学論 江戸文学論 近代詩歌論 近代小説論 現代文学論 出版概論 書誌学 日本語教育論 中国文学論 漢語	国語学 国文学史を基礎とし、日本語の諸相、神話、伝説、近代詩、小説などの文学領域、映像などの現代文化、漢文化圏などの文学的交差点などの学際的な知識の習得に関する知識と応用知識を身につける。 国文学史 古典文学論 現代語学論 日本語論 言語伝承論 和歌概論 中世物語論 歴史学論 上方文学論 江戸文学論 近代詩歌論 近代小説論 現代文学論 出版概論 書誌学 日本語教育論 中国文学論 漢語	奈良の土地を生かした実地調査をしたり、歌舞伎、文楽などの演劇を近隣の劇場で鑑賞したり、能楽や和太鼓の所作を身体で体験したなどの実地調査やフィールドワークに関する知識や態度とともに、多面的な問題意識を養う。 近世演劇概論、古典芸能実習、本出版・実習、実地見学・踏査	学年ごとに学び合う少人数クラスを設定し、学びの過程を経ることに古典文学、近現代文学、日本語、出版、メディア表現などを総合的に捉える学びにより得る知識を駆使し、他者に対する共感的な理解や態度とともに、多面的な問題意識を養う。 言語・文学、国文学講義、演習、世界遺産文学演習	卒業論文	卒業論文	卒業論文	卒業論文		
<主眼科目> これからの時代を主体的に生きていくに必要な、基本的な諸問題を扱う。数多くの主眼科目の中から、主とわけて自分なりの主眼を見つけて学んでもらうために、「人間」「国際関係」「環境」という3つの分野を軸とし、専攻ごとのコア科目を配置している。各コア科目群は、互いに関連しつつも異なる視点や発想法による科目群で構成されている。 人間論、国際関係論、環境論	史学科 日本史概論、東洋史概論、西洋史概論、歴史学通論 上記の科目を学ぶに当たり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。 法学概論、政治学概論、社会学概論、経済学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論	史学という学問の基本的な作法を身につけると共に、日本史と世界史の各時代・各地域における歴史的方法および史料に関する基礎的な知識と応用知識を身につける。 史学 史学概論、東洋史概論、西洋史概論、歴史学通論	日本史と世界史の各時代・各地域における最新の研究動向と方法を修得し、歴史学に必要となる史料と研究方法の基本的な知識と応用知識を身につける。 日本史概論、東洋史概論、西洋史概論、歴史学通論	日本史と世界史の各時代・各地域におけるさまざまな史料の活用やレクリエーションに融け、実物史料の扱い方や観察・検閲方法を学び、またその歴史を踏まえて、実物やレクリエーションを通じて、相手と冷静かつ建設的に議論、批判的意見を身を持って養う。 古文書学、日本史料実習、東洋史料実習、西洋史料実習	自己のテーマに関する先行研究の成果と課題をきちんと整理し、独自の研究課題を設定する。そのうえで、地道かつ広範な史料調査を実施し、建設的に議論、批判的意見を身を持って養う。 口頭報告や文章作成を通して、自己のテーマに関する先行研究の成果と課題をきちんと整理し、独自の研究課題を設定する。そのうえで、地道かつ広範な史料調査を実施し、建設的に議論、批判的意見を身を持って養う。 自己のテーマに関する先行研究の成果と課題をきちんと整理し、独自の研究課題を設定する。そのうえで、地道かつ広範な史料調査を実施し、建設的に議論、批判的意見を身を持って養う。	卒業論文	卒業論文	卒業論文	卒業論文		
<外国語科目> 外国語の学習は、国際時代に適応し、学問を深めためた基礎となる。外国語科目は、A群(英語)とB群(ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語)に分かれており、A群とB群それぞれを習得しなければならないが、それぞれ複数の分野に幅広く対応できるクラスを設けているので、その中から自由に選択することができる。 英語、英会話、TOEIC、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	地理学科 自然地理学、人文地理学、日本地理学、世界地理学、環境地理学 上記の科目を学ぶに当たり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。 日本史、外国史、法学概論、政治学概論、社会学概論、経済学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論	系統地理学的に地理学全体を概観できるようにする。日本および世界における地理的・地域の文化・特性を理解できるようにする。人文社会科学と自然科学の融合である地理学を環境を通して学ぶことができるようにする。 地理学の実習、地図学、地理情報システム、マルチメディアシステム論、データベース論、測量学実習、地理情報システム技法、地域分析技法、環境地理学・モータリゼーション論、ネットワークプログラミング、情報通信システム論	幅広いコースに合わせた多数の講義内容が展開されている。環境と防災分野、まちづくりと防災分野、歴史と観光分野、交通と都市分野について、意欲的に学ぶことにより、多面的な知識とそれらに応用する力を養成することが必要となる。 都市地理学、農村地理学、歴史地理学、経済地理学、地域計画論、人口情報地理学、交通地理学、地理学実習、地理情報システム技法、地域分析技法、環境地理学・モータリゼーション論、ネットワークプログラミング、情報通信システム論	2年次の小規模、3年次の大規模、野外研修は必修科目となっており、現地調査だけでなく、事前調査・事後研究の実施も重要視される。地域における調査を行うためには、自覚と責任を持って主体的に行動することが必要となる。 地理学講義・調査法、地理学演習、世界遺産地理学演習、地理学卒業演習、世界遺産地理学卒業演習	文獻の検索や講義を通してレジュメ作成・プレゼンテーション方法を学ぶ。専門的な調査方法を習得し、卒業論文作成に備え、質屋でコミュニケーション能力を磨き、自分の考えを適切に言葉や表現によって主張できるようにする。 ゼミ教員から指導をうけ、的確な疑問や困惑を用いて地理学に関する卒業論文を作成する。卒業論文は、問題所在の把握、論文や文獻の構成、参考文献を理解した上でレベルに沿ったものであり、論理的な内容とする。 卒業論文	卒業論文	卒業論文	卒業論文	卒業論文		
<健康・スポーツ科目> 「実技科目の(スポーツ実技)」「講義科目の(健康論)」で構成されている。「スポーツ実技」は身体運動の理解を深め、スポーツを実践的に学び、継続化する方を養成を目的としている。「健康論」は、健康について体系的な理解し、生涯を通じて自身の健康を把握、改善する力を身につけることを目的としている。 スポーツ実技、健康論	文化財学科 考古学概論、美術史概論、史料学講義、保存科学概論、文化財学研究法講義 上記の科目を学ぶに当たり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。 日本史、外国史、法学概論、政治学概論、社会学概論、経済学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論	考古学、美術史、史料学、保存科学など専門分野を概観し、従来の研究成果にもとめる基礎的かつ必要の事項を学ぶ。文化財学・文化財研究分野および文化財学に関する必要事項を確認し、基礎的な調査研究法を修得する。 考古学講義、美術史講義、史料学講義、保存科学講義、文化財学研究法講義	考古学、美術史、史料学、保存科学など専門分野を概観し、従来の研究成果にもとめる基礎的かつ必要の事項を学ぶ。文化財学・文化財研究分野および文化財学に関する必要事項を確認し、基礎的な調査研究法を修得する。 考古学講義、美術史講義、史料学講義、保存科学講義、文化財学研究法講義	考古学、美術史、史料学、保存科学の各分野とそのための調査機器等の実践的知識を学ぶ。文化財学・文化財研究分野における知識を身につける。調査・保存等の方法を修得する。 考古学実習、美術史実習、保存科学実習	考古学、美術史、史料学、保存科学の各分野とそのための調査機器等の実践的知識を学ぶ。文化財学・文化財研究分野における知識を身につける。調査・保存等の方法を修得する。 考古学実習、美術史実習、保存科学実習	卒業論文	卒業論文	卒業論文	卒業論文		

		教育内容							学修方法	学修成果評価方法
		文学部では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために教養教育、学科ごとの専門教育、自由選択科目、そしてキャリア教育について、各区分ごとに次の内容の授業を開講している。								
		【教養科目】	【各学科専門科目】					【自由選択科目】		
<概論>	<専門に関する技法>		<講義>	<専門の実践的科目>	<演習>	<卒業論文>				
文学部	文化財歴史学科(通信教育課程)	<p><主題科目> これからの時代を主体的に生きていくのに必要な、基本的な諸問題を取り扱う。数多くの主題科目の中から、主とまりを併せて自分の「主題」を定めて学ぶ。さらに、「人間」「国際関係」「環境」といった分野を定直し、対応する科目群を配置している。各コア科目群は、互いに関連しつつも異なる視点や発想法による科目群で構成されている。</p> <p>史料学概論、考古学概論、美術史概論、東洋史概論、西洋史概論</p>	<p>先行研究として重要な論文・関係史料の講読を通して、専門用語(術語)を理解し、さまざまな史料に関する基礎的知識・扱い方・分析方法を修得する。さらに、学術論文の構造や要点を理解する力、史料を調査・分析できる力を身につける。</p> <p>史学講読、文化財学講読</p>	<p>史学、文化財学、国文学、地理学の各分野における様々な研究視野のもとで専門的知識を学び、最新の研究動向と研究方法を修得する。自らの研究の方向と課題を発見し、解決の力を身につけることで、研究の深化をめざす。</p> <p>日本史特殊講義、考古学特殊講義、美術史特殊講義、西洋史特殊講義、東洋史特殊講義、言語伝承論、江戸文学論、歴史文学論、書誌学、平安文学論、観光論、シルクロード学、民俗学、仏教考古学、建築史</p>	<p>奈良の立地を生かした実地調査で文化領域を総合的に捉える能力を養う。また、さまざまな史料の実物やレプリカに触れ、それを通して、実物史料の扱い方や、実物やレプリカだからこそ見える歴史の世界の分析手法を修得する。</p> <p>奈良文化論、神話伝承論、歴史地理学、古文書学、文化財修復学</p>	<p>自らの卒業論文のテーマを見つけ、また、研究史を踏まえ、課題解決に向けて、口頭や文章による報告を重ねるとともに、自らの考えをわかりやすく伝える能力を養う。さらに討議を通して、他者と建設的に議論を行う力を身につける。</p> <p>史学演習、文化財学演習</p>	<p>自らのテーマに関する先行研究の成果と課題をきちんと整理し、地道かつ広範な調査のもとで、課題解決に向けて筋道を立てる。さらに、適切な計画的のもと、主体的に研究成果をまとめる。</p> <p>卒業論文</p>	<p>教養科目、専門科目を補充し、幅広い学問分野が学修できるように編成した科目を開講している。</p> <p>現代文学論、自然地理学、地理情報システム、人文地理学、気候学、心理学基礎、社会学基礎、経営学基礎、臨床心理学、情報処理、文化人類学</p>	<p>通信教育部では、テキスト科目(印刷教材等による授業)、およびスクーリング科目(面接授業)により学修を行う。</p> <p>テキスト科目は、担当教員指定のテキスト、担当教員作成の学習指導書(サブテキスト)を基に、学生が自宅等で主体的かつ能動的に学修を行い、学修成果をレポート(報告課題)として提出し、担当教員が添削指導を行う。レポート合格者には科目修得試験受験資格を与え、科目修得試験の合格によって当該科目の単位修得となる。</p> <p>スクーリング科目では、学生は担当教員と対面による集中講義授業の受講により、各学期分野の学修を行う。テキスト科目では学修が困難である演習科目やすぐれた歴史的環境にふれる現地調査により学生が主体的かつ能動的に学修を行う。</p>	<p>学修成果の評価方法は、次のとおりとする。</p> <p>テキスト科目では、提出のあったレポート(報告課題)を担当教員が添削指導を行う。添削指導は、8つの評価項目(設題意図の把握度、テキストの内容理解度、論点の明確さ、論理の一貫性、着眼点、独創性、文章構成力、文字や表現の正確さ)により評価を行い、総合評価として合格又は再提出の判定を行う。</p> <p>レポート合格者には科目修得試験の受験資格を与える。科目修得試験は論文形式で行い、当該科目の最終試験として評価を行う。</p> <p>スクーリング科目では、当該科目の到達目標への達成度を、筆記試験、レポート提出、口頭発表、授業への参加態度のいずれか、あるいはそれらを総合して評価を行う。</p> <p>卒業論文では、各自の研究テーマに基づき定めた卒業論文指導教員が、①卒業論文計画書、②卒業論文草稿、③面接指導と段階的に論文指導を行い、提出される卒業論文を当該教員での最終的な学修成果として、学位授与にふさわしいかどうかを評価する。</p>
		<p><外国語科目> 外国語の習得は、国際化時代に適応し、学問を深めるための基礎となる。外国語科目は、英語と中国語から自由に選択することができる。</p> <p>英語、中国語</p>	<p><健康・スポーツ科目> 実技科目の「スポーツ実技」、講義科目の「健康論」で構成されている。「スポーツ実技」は身体運動の理解を深め、スポーツを段階的に学び、継続化する力を養うことをめざしている。「健康論」は、健康について生理学的に理解し、生涯を通じて自らの健康を把握、改善する力を身につけることを目的としている。</p> <p>スポーツ実技、健康論</p>							

		教育内容						学修方法	学修成果評価方法
		社会学部では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために教養教育、学科ごとの専門教育、自由選択科目、そしてキャリア教育について、各区分ごとに次の内容の授業を開講している。							
【教養科目】		【各学科専門科目】							
		<概論>	<専門に関する技法>	<講義>	<専門の実践的科目>	<演習>	<卒業論文>		
社会学部 <基礎科目> 基礎的が字の技法(スタディスキルズ)や「発表・討論の技法」を身につけることを目的としている。また、モバイルデバイスを含めた情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応するための科目も含まれている。 情報基礎・倫理、表現技法 <主題科目> これからの時代を主体的に生きていくに必要な、基本的な諸問題を取り扱う。数多くの主題科目の中から、まとまりを持って自分なりの「主題」を見つけて学ぶことに加え、「人間」「国際関係」「環境」という3つの分野を設定し、対応するコア科目群を配置している。各コア科目群は、互いに関連しつつも異なる視点や発想による科目群で構成されている。 人間論、国際関係論、環境論 <外国語科目> 外国語の習得は、国際化時代に適応し、学問を深めるための基礎となる。外国語科目は、A群(英語)とB群(ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語)に分かれている。A群とB群のそれぞれを習得しなければならないが、それぞれ複数の分野と種別に応じて多数のクラスを設けているので、その中から自由に選択することができる。 英語、英会話、TOEIC、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語 <健康・スポーツ科目> 実技科目の「スポーツ実技」、講義科目の「健康論」で構成されている。「スポーツ実技」は身体運動の理解を深め、スポーツを民間的な学芸、職業化する力を養うことをめざしている。「健康論」は、健康について生理学的に理解し、生涯を通じて自分の健康を把握、改善する力を身につけることを目的としている。 スポーツ実技、健康論	心理学科 心理学の考え方や基礎的な理論を修得するために、1年次に心理学全般の概論科目や、特に注力している臨床心理学と社会心理学の概論科目を配置し、他者と共有するための技術を、実習科目を通じて実践的に学ぶ。 心理学入門、臨床心理学概論、社会心理学概論 心理学実験、臨床心理学基礎実習、社会心理学基礎実習、心理学研究方法、心理統計 パートナリティ心理学、社会心理学、発達心理学、認知心理学、学習心理学、教育心理学、行動科学論、集団力学、精神分析学、犯罪心理学、コミュニティ心理学、青年心理学、応用心理学、生理心理学、心理療法、発達臨床心理学、精神医学、集団精神療法、教育臨床心理学、福祉臨床心理学、心理病理学、医療心理学、文化心理学、進化心理学、対人社会心理学、産業・組織心理学、知覚心理学、社会心理学特殊講義、臨床心理学特殊講義	人間の心の働きや行動、他者との関係を検討するための測定法や介入法が学ぶ方法論科目や、データの解析する統計的方法論科目を配置する。また、成果を報告し、他者と共有するための技術を、実習科目を通じて実践的に学ぶ。 パートナリティ心理学、社会心理学、発達心理学、認知心理学、学習心理学、教育心理学、行動科学論、集団力学、精神分析学、犯罪心理学、コミュニティ心理学、青年心理学、応用心理学、生理心理学、心理療法、発達臨床心理学、精神医学、集団精神療法、教育臨床心理学、福祉臨床心理学、心理病理学、医療心理学、文化心理学、進化心理学、対人社会心理学、産業・組織心理学、知覚心理学、社会心理学特殊講義、臨床心理学特殊講義	心理学研究で用いる多様な方法論の実習科目を配置する。対象者との関係構築の技法や研究課題の設定、検証の手順の策定、成果の報告方法について体系的・実践的に学修し、問題を自らの課題として捉え、考察する能力を育成する。 心理アセスメント実習、カウンセリング実習、社会心理学実験実習	4学期にわたる段階的な学びにより、心理学における知識、技法、思考表現技法を習得し、卒業論文作成に必要な探求能力を培う。また、対人関係や社会における問題を心理学的に捉えて研究課題を構築する能力を育成する。 臨床心理学演習、社会心理学演習、世界遺産社会心理学演習	大学の学びを通じて身につけた能力を総合的に発揮し、先行研究を踏まえて、自らの関心ごとについて問題の発見、検証方法の策定、事例やデータの収集、結果の分析や解釈を行い、その成果として卒業論文を完成させる。 卒業論文	教養科目と学科専門科目以外にも臨時的で主体的な学修ができるように、自学科以外の他学科の科目や文学部の科目も履修できるようにしている。 さらに、「全学自由科目」を設けることで、シシシと関わらない幅広い分野の学修ができるようにしている。 数理の世界、統計学入門、生命科学、生物の多様性、宇宙・物質・エネルギー、自然史、科学技術史、思想史、社会経済史、現代史、現代芸術論、観光論、GIS基礎実習、GIS基礎講座、芸術史、映像文化論、コンテューク概論、プログラミング初級、データ処理論、コンテュークグラフィックス、コミュニティ概論、情報と職業、情報ネットワーク論、人文地理学概論、自然地理学概論、地誌学概論、パソコン操作、日本国産論、ジェンダー論、差別・人権問題論、奈良文化論、シルクロード学、世界遺産学概論、海外研修、入門スペイン語、キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、キャリアのための人間関係論	学生が分野にとわらず学べる「全学自由科目」の一部として、学生が卒業後の将来をへき、進路実現に向けた準備を行うためのキャリア支援科目を設けている。 キリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、キャリアのための人間関係論	左記の教育内容について、科目の内容や目的に応じて、次の各種の形式の授業、あるいは複数の形式を組み合わせた授業を通じて、学生が左記の教育内容を主体的かつ能動的に学修できるようにする。 講義形式・・・各分野の概念や特徴等の知識を、教員の説明や解説と質疑応答により修得する。 演習形式・・・専門分野における自分および他者の調査研究について建設的に意見を交換していくことを通じて専門分野を総合かつ体系的に把握する。 実技・実験・実習・フィールドワーク形式・・・実践的作業や観察、海外を含む教養外での諸活動を通じて、技法や技術を体得し、体験や経験を身につける。 4年間の学修全般について 奈良大学では卒業論文を4年間の学びの集大成として位置づけている。卒業論文の内容により4年間の学びが体系的に身に付いているか、学位授与にふさわしいかどうかを総合的に評価する。	
	総合社会学科 社会学基礎、文化人類学、経済学、情報学 上記の科目を学ぶに当たり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。 法学概論、政治学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論 地域社会学、家族社会学、産業社会学、国際社会学、環境社会学、情報社会学、東アジア・東南アジア社会学、南アジア社会学、社会論、経済学、消費者行動分析、企業行動分析、消費と経済、経営管理論、情報工学、産業と技術の発展、世界の民族誌、民法概説、行政法概説、国際政治学概説、ジェンダーとライフコース、企業倫理と消費者、生と死の哲学、応用倫理学概論、現代社会と宗教、心理学概論、身体と文化の継承、メディアとコミュニケーション、情報基礎理論、プログラミング言語、デジタルアーカイブ概論、文化情報論、販売管理論、知的財産管理論、経営管理計画論、総合社会学特殊講義、世界遺産社会学特殊講義	社会学の領域に偏ることなく、現代社会学の理解に欠かせない「諸領域」について広く俯瞰的に講義を中心とした必修科目を履修することにより、より専門的な学修の可能性を広げ、総合的な知識の基礎とする。 社会学基礎、文化人類学、経済学、情報学 上記の科目を学ぶに当たり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。 法学概論、政治学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論 地域社会学、家族社会学、産業社会学、国際社会学、環境社会学、情報社会学、東アジア・東南アジア社会学、南アジア社会学、社会論、経済学、消費者行動分析、企業行動分析、消費と経済、経営管理論、情報工学、産業と技術の発展、世界の民族誌、民法概説、行政法概説、国際政治学概説、ジェンダーとライフコース、企業倫理と消費者、生と死の哲学、応用倫理学概論、現代社会と宗教、心理学概論、身体と文化の継承、メディアとコミュニケーション、情報基礎理論、プログラミング言語、デジタルアーカイブ概論、文化情報論、販売管理論、知的財産管理論、経営管理計画論、総合社会学特殊講義、世界遺産社会学特殊講義	必必修科目をふまえてさらに広く社会科学諸領域の知識を得ることにより、社会学諸問題を見出し、多面的価値観や社会的現実の存在を理解し、実証的なデータを活用して問題解決にあたる力を身につける。 地域社会学、家族社会学、産業社会学、国際社会学、環境社会学、情報社会学、東アジア・東南アジア社会学、南アジア社会学、社会論、経済学、消費者行動分析、企業行動分析、消費と経済、経営管理論、情報工学、産業と技術の発展、世界の民族誌、民法概説、行政法概説、国際政治学概説、ジェンダーとライフコース、企業倫理と消費者、生と死の哲学、応用倫理学概論、現代社会と宗教、心理学概論、身体と文化の継承、メディアとコミュニケーション、情報基礎理論、プログラミング言語、デジタルアーカイブ概論、文化情報論、販売管理論、知的財産管理論、経営管理計画論、総合社会学特殊講義、世界遺産社会学特殊講義	科学的なデータを収集してそれを活用する方法を実践し、教室の中で学ぶだけでなく、得た知識を実際の社会の中で活用する経験を重ねる。また、大学で専門的に学ぶことの意味と意義を、社会における実践的活動により明確化させる。 社会学実験実習、社会調査実習	1年次および2年次で学んだことを総合的に自らの研究として結果させるための具体的な方法を身につけることと共に、他者の意見を尊重しながら、自らの主張を適切に表現し、議論することの重要性を学ぶ。卒業論文を執筆するための中心となる。 演習、世界遺産社会学演習	社会に対して知的に貢献することを目指す。先行研究における如の課題を十分に踏まえた上で自らの研究目標と、具体的な実践的研究課題を設定し、適切な計画性のもと、主体的に研究論文を完成させる。 卒業論文	教養科目と学科専門科目以外にも臨時的で主体的な学修ができるように、自学科以外の他学科の科目や文学部の科目も履修できるようにしている。 さらに、「全学自由科目」を設けることで、シシシと関わらない幅広い分野の学修ができるようにしている。 数理の世界、統計学入門、生命科学、生物の多様性、宇宙・物質・エネルギー、自然史、科学技術史、思想史、社会経済史、現代史、現代芸術論、観光論、GIS基礎実習、GIS基礎講座、芸術史、映像文化論、コンテューク概論、プログラミング初級、データ処理論、コンテュークグラフィックス、コミュニティ概論、情報と職業、情報ネットワーク論、人文地理学概論、自然地理学概論、地誌学概論、パソコン操作、日本国産論、ジェンダー論、差別・人権問題論、奈良文化論、シルクロード学、世界遺産学概論、海外研修、入門スペイン語、キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、キャリアのための人間関係論	学生が分野にとわらず学べる「全学自由科目」の一部として、学生が卒業後の将来をへき、進路実現に向けた準備を行うためのキャリア支援科目を設けている。 キリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、キャリアのための人間関係論	左記の教育内容について、科目の内容や目的に応じて、次の各種の形式の授業、あるいは複数の形式を組み合わせた授業を通じて、学生が左記の教育内容を主体的かつ能動的に学修できるようにする。 講義形式・・・各分野の概念や特徴等の知識を、教員の説明や解説と質疑応答により修得する。 演習形式・・・専門分野における自分および他者の調査研究について建設的に意見を交換していくことを通じて専門分野を総合かつ体系的に把握する。 実技・実験・実習・フィールドワーク形式・・・実践的作業や観察、海外を含む教養外での諸活動を通じて、技法や技術を体得し、体験や経験を身につける。 4年間の学修全般について 奈良大学では卒業論文を4年間の学びの集大成として位置づけている。卒業論文の内容により4年間の学びが体系的に身に付いているか、学位授与にふさわしいかどうかを総合的に評価する。